

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

TEL : 03-3519-5181 FAX : 03-3597-5171 メール : jaera-homepage@elv.or.jp

URL : http://www.elv.or.jp/

自動車リサイクル士、変更内容決定

2015年度は東京・大阪の2会場で新制度移行講習会を実施

自動車リサイクル士制度の変更及び移行措置について

自動車リサイクル士制度も皆様のご協力のもと、運用開始から早2年が経過いたしました。

当初は、手探り状態の中立ち上げた制度ではございましたが、この過程におきましては、経済産業省、環境省、日本自動車工業会、自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構など、さまざまな関係機関の皆様と多くの協議を重ねてまいりました。その中で「優良事業者の育成」や「自動車リサイクル法との連動」といった本制度の方向性に関わる議論があり、ここで大きく本制度の見直しを図ることとなりました。

有資格者の皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまったことは重々承知しておりますが、ここに来てようやく国や関係団体の皆様のご理解を得ることができたことは、本制度の道りにおける大きな一歩であり、今後の大きな指針となることを確信しております。

つきましては、2016年4月1日より新制度を施行する予定でございます。有資格者の皆様におかれましては、新制度移行講習会を経て速やかに新制度への移行ができる形になっておりますので、ご対応とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構
代表理事 河村 二四夫

見直し後の方向性

最終目標を「**優良事業者の育成**」とし、将来的な優良事業者（会社）育成のために、**自動車リサイクル士制度を通して人を育成すること**を目指していきます。

見直しの経緯

■ 本制度の設計時点での目標は、自動車リサイクル法での解体業許可の要件を目指すというものであり、業の入り口での能力を担保しようと考えた制度でした。

→ しかし、ELV機構の実施する本制度の認定講習会で解体業許可の要件を目指すには多種のハードルがあるため、外部から評価されるものを目指すことにしました。

■ 進行中の自動車リサイクル法見直しの審議会においても、優良事業者を育成してより高度なりサイクルを目指すべきであるとされ、優良事業者によって多くの使用済自動車処理されるような将来像が議論されています。

→ 優良事業者の要件は現時点では定まっていますが、その要件を目指すことで本制度の魅力も高まると考え、方向性から見直すことにしました。

(次ページに続く)→

目次

巻頭言	… 1
トピックス	
自動車リサイクル士	… 1-3
特別インタビュー	… 4-6
JIS開発事業	
第1回 原案作成委員会	… 6
北自協、イベント初参加	… 7
中国・四国ブロック会議	… 7
関東ブロック交流会	… 7
アジア環境フォーラム	… 8
部品団体東北地区交流会	… 8
鉄スクラップ最新情報	… 9
行事予定・お知らせ	… 10
編集後記	… 10

巻頭言

大村智教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。受賞理由は「寄生虫によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法の発見」ということです。教授は、山梨県韮崎市出身の山梨大学卒・北里大学特別栄誉教授80歳、常に小さな袋を持ち歩き、年間数千という微生物を採取していたことが今回の成果に繋がりました。地道な取り組みから成功を導き出し、失敗を恐れず、人の真似ごとでない研究を進めることの大切さを強調されています。教授の出身である韮崎市は河村代表の会社のお近くでもあり、ご友人の叔父様とお聞きしました。とても親しみを持つことが出来ると同時に我々も教授の様に「地道な努力」と「新たなものへの挑戦」により業界の成功を導き出していきたいです。

(広報部会 木村 香奈子)

自動車リサイクル士制度の変更点（2016年4月1日施行の新制度の内容）

1. 有効期限

2年 → 「5年」に変更

2. 運用形式

各ブロックで開催 → 「ブロックごとにローテーションで開催」（会場集約型）に変更

3. 資格の種類

- (1) 自動車リサイクル管理士
 - (2) 自動車リサイクル実務士上級
 - (3) 自動車リサイクル実務士初級
- (1) 自動車リサイクル士（全工程）
→ (2) 自動車リサイクル士（引取・フロン工程）

4. 資格付与要件（新規）・更新要件

- (1) 自動車リサイクル士（全工程）

資格付与要件

講習会を受講して試験で一定の点数を取ること

更新要件

試験で一定の点数を取ること（※講習会の受講は必須ではない）

その他

試験を受けず、講習会のみを受講することも可能（※更新はできない）

→ 自主学习の一つとして講習会のみを受講も認めます。

- (2) 自動車リサイクル士（引取・フロン工程）

資格付与要件

講習会を受講すること

更新要件

更新手続きを行うこと（※更新手続き＝資料送付請求）

新制度施行前の有資格者の皆様への対応（新制度への移行措置）

1. 移行措置の内容・対象者

- ・現在の有資格者の皆様は、新制度の資格に移行するための措置として、2015年度と2016年度の2年度にわたって、「自動車リサイクル士 新制度移行特別認定講習会」（以下、「新制度移行講習会」）を実施します。
- ・対象者＝平成25年度（2013年度）合格者の方 及び 平成26年度（2014年度）合格者の方

特別措置のため、試験は実施せず、受講すれば資格更新（新制度における資格へ移行）となります。

2. 更新方法

- (1) 新制度移行講習会を受講して更新
 - (2) 新制度移行講習会を受講せず更新（資料・DVD送付請求）
- ※場所や日程などの都合により、新制度移行講習会を受講できない方は（2）の方法で更新を行ってください。（2）の方法をとった場合、内容確認票の返送は必須です。
※更新後は新制度における資格へ移行します。

移行前	移行後
自動車リサイクル管理士	自動車リサイクル士（全工程）
自動車リサイクル実務士上級	
自動車リサイクル実務士初級	自動車リサイクル士（引取・フロン工程）

3. 更新料金

- ・上記どちらの更新方法でも、どの資格でも、一律の価格になります。

■ E L V 機構会員 15,000円

■ E L V 機構非会員 20,000円

(次ページに続く)→

4. 新制度移行講習会

- ・全資格共通の内容です。新制度移行のための特別措置のため、試験は実施せず、受講すれば資格更新（新制度における資格へ移行）となります。

開催日	開催場所
2015年12月17日（木）	TKP新橋内幸町ビジネスセンター 東京都港区西新橋1丁目1-15
2016年 2月25日（木）	エル・おおさか 大阪府大阪市中央区北浜東3-14

- ・2015年度の新制度移行講習会は、上表のとおり、2会場で行います。
有資格者の皆様には、後日あらためて新制度移行講習会の案内文書をご郵送いたしますので、詳細は、そちらをご参照ください。

5. 有効期限・認定証書

- ・年度はまたがってもすべて同じ移行措置であるため、更新日・有効期限ともに一律です。

	2015年度に更新	2016年度に更新
更新日	2016年4月 1日	2016年4月 1日
有効期限	2021年3月31日	2021年3月31日

- ・更新後に発行される認定証書は、すべて新しい資格の認定証書です。
認定証書発行のタイミングは以下のとおりです。
 - 新制度移行講習会を受講して更新 → 講習会受講後に会場にてお渡し
 - 新制度移行講習会を受講せず更新 → 資料・DVD送付時に同封

6. 移行措置の内容まとめ

対象者	現状の資格有効期限	更新（移行）要件の選択肢
平成25年度 （2013年度）合格者	平成28年 （2016年）3月31日	①2015年度新制度移行講習会を受講
		②更新手続き（資料・DVD送付請求）
平成26年度 （2014年度）合格者	平成29年 （2017年）3月31日	①2015年度新制度移行講習会を受講
		②2016年度新制度移行講習会を受講
		③更新手続き（資料・DVD送付請求）

現状の資格有効期限が切れる前に、いずれかの方法で更新（移行）を行ってください。期限が切れたら資格は失効します。このため、**期限が切れた後に更新（移行）はできません。**

以上

変更内容の詳細については、こちら→ http://www.elv.or.jp/media/12/20151022-jirisi_henkou_20151022.pdf をご確認ください。変更理由などもこちらにまとめて記載しています。

有資格者の皆様には、10月末日より、変更内容をまとめた資料をご郵送にてお送りしておりますので、詳細は、そちらをご確認いただければ幸いです。
また、新制度移行講習会のご案内も別途ご郵送にてお送りいたします。講習会のタイムスケジュールや申し込み方法などは、その案内文書に記載しております。案内文書がお手元に届くまで、しばしお待ちくださいますようお願いいたします。

リサイクルの専門家、東京大学村上進教授に聞く



産構審・中環審合同会議に委員として参加され、大学では天然資源、金属資源などを専門とし、資源やリサイクルにおける技術の評価や社会システム評価の研究をされている東京大学大学院工学系研究科の村上進亮准教授をお招きし、ELV機構の広報部会にて意見交換会を行いました。

写真:東京大学 大学院工学系研究科 准教授

村上 進亮(むらかみ しんすけ)様

※以下、本文中は敬称略。

レアメタルについて

——自動車に使われている希少金属は代替の金属が使われるようになってきていますが、我々解体業者が時間とコストをかけてレアメタルを回収する意義はあるのでしょうか。

村上 今の資源価格レベルで言えば、貴金属以外はなかなか厳しいと思います。レアアースも難しい状況で、値段が下がってしまったので、アメリカの会社が破産法の申請をしたりしています。しかし、リサイクルしないかという、そうではないです。資源によっては出所の情勢が悪いので、天然資源があてにならず、危なくなれば市況に跳ね返ります。そうすると採算が良くなり、やらざるを得ないでしょう。

やるのであれば、磁石です。それは、チャイナリスクがあるからです。レアアースに関してはELV機構さんの事業で行ったようなリサイクルプロセスを一通り持っている国は極端に少なく、日本だけの話ではないのです。世界中で磁石をかき集めて、それらを数か所に絞ってまとめれば、スケールメリットが出てくるというのが大筋の読みです。磁石を使っている車が多くなれば、日本だけでも採算が取れます。今はまだ磁石を使っている車が少ないので、海外から磁石をかき集めて、それを日本に持ってくることはできないか、といった議論は多く出てきています。日本はレアアース関連の素材産業を持っている数少ない国なので、セキュリティーを考えると、他の国へ出すより日本へ出す方がいいと考えられて、最初採算が合わなくても走り出す可能性があります。

レアメタルは、特殊で限定的な用途で使われるものと広く薄く合金添加剤のように使われるものがあり、後者は資源として回収するのは難しいと思われます。審議会の見直しの中でも、特定の鋼板は、きちんと選り分けて集められないかという意見が出ました。考えることは重要ですが、逆に、解体業者の皆さんに「鉄を種別に分けて出してください」というのが現実的なものかという厳しいと思います。今はまだ、そこまでやる時期ではないでしょう。

ヨーロッパと日本のリサイクルの違い

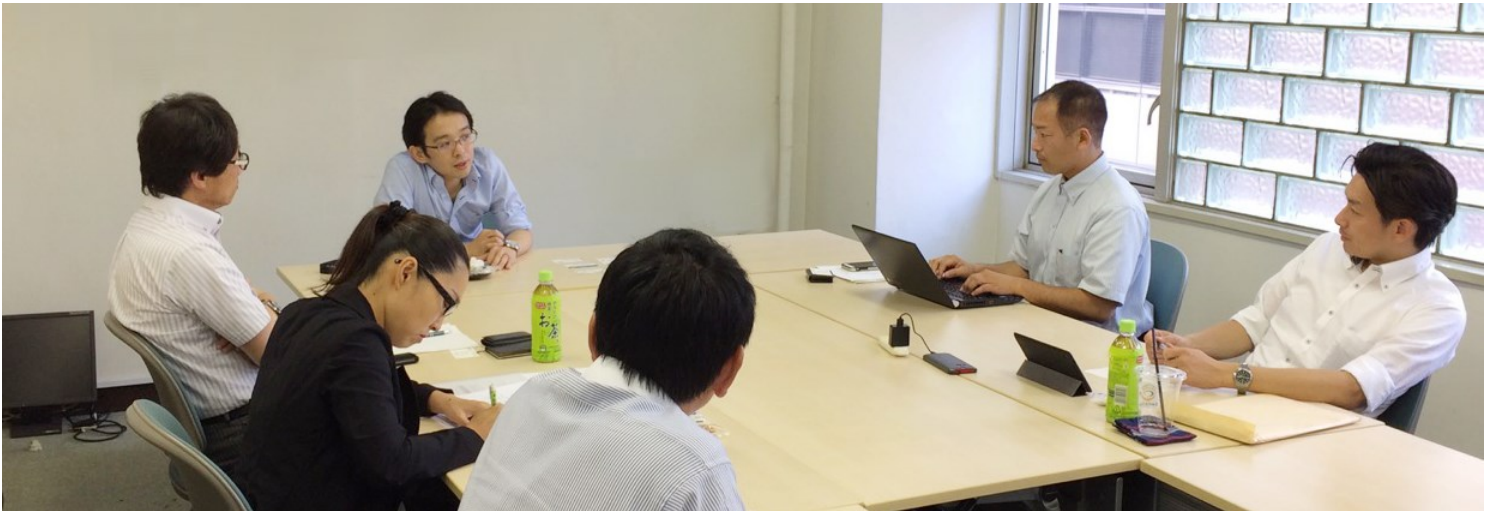
——ヨーロッパが自動車リサイクルの先端をいっており、オランダなどはリサイクル技術や制度を独自に作っていったと聞きますが、現段階で、ヨーロッパと日本では、どのような違いがあるのでしょうか。

村上 技術的にもものすごく違うかという、そんなに違わないと思っています。若干違うのは、選別技術です。選別の新しい機械はヨーロッパのものも多く、実際に用いられる選別技術はヨーロッパの方が上だと言われています。難しいことをしているわけではなく、大きな会社があり、資本力もあるために実際にどんどん実験・投資しているので、ヨーロッパ企業が優位ということがあります。法制度と絡み、ヨーロッパのリサイクル系のシステムは、製品別から混合型へ移行しつつあります。

(次ページに続く)→

——磁石もプラスチックもリサイクルにあたっては量の確保が非常に難しいと思うのですが、どうやって集めるのがポイントなのでしょうか。

村上 EUでは、ソーティングセンター（集中選別施設）があり、回収したものは出所にこだわらず、全部一か所に持っていく思惑です。実際、まだ徐々に展開している段階かと思いますが、たとえば、家電物も車物も一般廃棄物も全部まとめれば、プラスチックのボリュームも出るというところですか。ソーティングしているところを大きくするという、わかりやすい思想ですね。日本のように、いろいろなリサイクル法を立ててしまうと、それぞれの中で管理して別々に処理しなくてはならないので、こういったことができにくくなります。EUのように、そこを緩めた方が当然スケールメリットは出るわけです。



——日本でも劇的に車が減少し、我々も車だけでリサイクル業をしていくのが難しくなると考えています。いろいろなことに挑戦していかなければと思うのですが、その未来形はヨーロッパのリサイクル業界にあるのでしょうか。

村上 日本も、ヨーロッパのように、ある程度の規模は確保しなければならないと思います。しかし、日本の未来形が完全にヨーロッパにあるかというとなかなか難しいでしょう。ヨーロッパでは、素材産業がヨーロッパ圏のすべての国にあるわけではありません。たとえば e-waste で言えば、ベルギーに貴金属製錬を中心に e-waste リサイクルに非常に強いユミコアという企業があり、皆そこに集まる特殊な状況なのです。資源循環に関して、ヨーロッパは EU という枠組みがわりとうまく働いています。日本と比べて国の規模が小さいところがほとんどなので、うまく繋げるチャンスが出てきたのでしょうか。そもそも、素材産業も日本では国土に比して多いのが現状です。日本がヨーロッパと同じようになるかということ、規模が少し違うのと、素材産業の状況が大きく違うので、難しいと思います。

——我々はどこを目指していくべきなのでしょうか。今後の日本の解体業界の私達の進路について先生はどのようにお考えですか。

村上 第三者の我々から見て、動脈産業と静脈産業がアンバランスなので、動脈産業の方からもっとデータをもらえるといいと思います。もう少し情報共有するだけで、もっとうまくモノが回ると思っています。これは私だけに限らず、このように考えている皆さんがいて、情報を上手くやりとりするスキームを作りましょうという話があります。

(次ページに続く)→

—— 具体的にいえば、どのような情報でしょうか。

村上 今でも、解体のマニュアルはメーカーさんが出していますが、素材構成のような情報や「ここがお金になる」「お金にはならないが、ここは取ってほしい」といった情報があるといいですね。逆に、どのような情報をやりとりすれば、解体業者の皆さんが楽になるのかということ、今のタイミングで考えて出してみるというのもいいかもしれません。

(終)



意見交換会を終えて

村上准教授は、産構審・中環審合同会議の他にも、さまざまな検討会に参加され、意見を述べられています。この意見交換会の最後には、「皆さんが何か思いつかれたことを教えていただければ、さまざまな場で発言していくこともできます」と、心強いお言葉をいただきました。ありがとうございました。

JIS開発事業、第1回原案作成委員会を開催

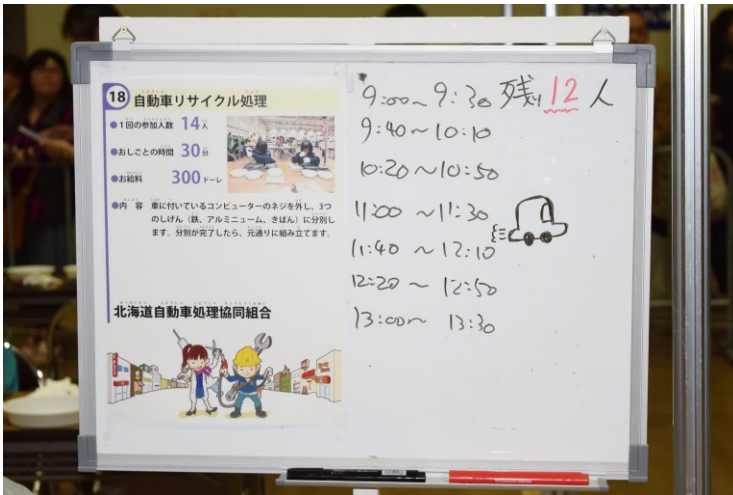


9月28日(月)、5東洋海事ビル会議室D(東京都港区)にて、「第1回 原案作成委員会」が開催されました。ELV機構では、平成27年度経済産業省高機能JIS等整備事業として、日本規格協会より再委託を受けている「安全・安心な社会形成に資するJIS開発」事業(テーマ名:自動車補修用リサイクル部品のラベリング規格に関するJIS開発)を進めています。(以下、事業名は「JIS開発事業」と表記)これまで業界関係者で構成された原案作成WG(リーダー:熊本大学 外川 健一 教授)を2回開催してきました。このWGでの検討内容を受けて、生産者、消費者、販売者、中立者など、さまざまな立場の委員のコンセンサスを得る場が原案作成委員会(委員長:山口大学 阿部 新 准教授)です。第1回の内容としては、事業概要の再確認、原案作成WGで行う実務的な内容の説明及びこれまで原案作成WGで行われた検討結果の報告を行いました。また、事務局より、JIS開発事業の方向性に関する提案(以下の3点)を行い、これらについて活発な議論が交わされ、一部検討を要するものの、委員会の承認を得ることができました。

《 JIS 開発 事業 の 方 向 性 》

- 1 **規格の目指す点** 認知度が高いJISをターゲットにする
- 2 **規格の位置づけ** 個別部品をターゲットにするのではなく、リサイクル部品全体を括って規格対象にする
- 3 **リユース部品、リビルト部品の取り扱い** リユース部品を優先してリサイクル部品規格の第一歩を進める

北自協、小学生向け職業体験イベントに初参加



10月3日・4日の両日、北海道札幌市で開かれた職業体験イベント「こどものまち ミニさっぽろ」に北海道自動車処理協同組合(佐藤正良理事長)が今年初めて参加しました。このイベントは小学生3・4年生が対象で、仮想の街につくられた様々な公共機関や店舗、会社に就職して働き、疑似職業体験を通して社会性や人間性を養うというもの。実際に疑似通貨で給料も支払われ、銀行や税務署まで備わっており、それらもすべて子供達で運営されています。このイベントには2日間で4,000人の児童が参加しました。同組合では、エンジンコンピューターの素材分別を通して、子供達に自動車リサイクル業者を体験してもらいました。作業としては、ドライバーでエンジンコンピューターを鉄とアルミニウム、基板に分解します。分解した後は、磁石を使って素材の種類を確認して分別します。それらを元通りに組み立てて、作業は終了となります。この作業には男子だけではなく、多くの女子も参加しました。中にはドライバーを初めて使う子供もいましたが、みんな夢中になってネジを回し、作業を進めていました。普段、見ることのないコンピューター基板ですが、中の基板を目にすると思わず驚きの声をあげていました。子供達はこの体験を通して様々なことを学ぶ機会を得ることができたようです。佐藤理事長は「子供達に自動車リサイクルを理解してもらいたい」と述べていました。

中国・四国ブロック会議、開催



10月10日、みのるガーデン(岡山県岡山市)にて、「中国・四国ブロック会議」が開催されました。

本部からは、河村代表理事、吉川副代表理事、奥野事務局長が出席し、本部活動について説明を行いました。また、来賓として山口大学の阿部新准教授をお招きし、「使用済自動車市場における流通・産業構造に関する考察」というテーマでご講演いただきました。その後、「フロン類・エアバッグ類適正業務の重要ポイント」として、自動車再資源化協力機構の藤嘉一様による説明があり、最後は全員参加の意見交換会で幕を閉じました。

関東ブロック交流会、開催



10月24日、ANAクラウンプラザホテル成田(千葉県成田市)にて、「関東ブロック交流会」が開催されました。

本部からは、河村代表理事、奥野事務局長が出席しました。例年、関東ブロックでは、この時期に年に1回のブロック会議を開催していましたが、今年度からは会議開催頻度を上げてブロックの活性化を図るために、会議と交流会を分けて行うことになり、今回は交流会として、ブロック内会員同士の親睦を深めることを目的に開催されました。

本部報告の後に懇親会、翌日にはゴルフコンペも行われ、会員同士のさかんな交流が図られました。

第8回アジア自動車環境フォーラム、開催



2日目の講演内容（一部抜粋）	
講演テーマ	講演者（敬称略）
日本の自動車リサイクルシステムの現状	外川 健一 熊本大学法学部教授
自動車リサイクル部品のリユースのために	清水 信夫 日本自動車リサイクル部品協議会会長
ハイブリッド車に使用される希少資源と資源循環への取組み	丸山 慎一 トヨタ自動車株式会社 技術統括部主幹
DOWAグループと（株）日本ピージーエムのリサイクルビジネスについて	西 寿士 DOWAメタルマイン株式会社 レアメタル事業部担当部長

10月1日～3日にかけて、秋田県秋田市にて、NPO法人全日本自動車リサイクル事業連合（JARA、天明茂理事長）主催の「第8回アジア自動車環境フォーラム」が開催され、国内外から約200名が参加しました。

“地域振興と自動車”をテーマに、1日目は「株式会社大晃商事」の工場と同社の施設「DECOファーム」を見学しました。同社では、解体工程までの廃棄物ゼロを目指し、環境負荷の少ない自動車リサイクルに取り組んでいます。「DECOファーム」では、廃タイヤを原料とした熱を利用してトマトやキノコ類の温室栽培を行っており、その様子を見学しました。

2日目の本会議では、午前中は、上表のプログラムのとおり、さまざまな方々の講演を通じて、日本における自動車リサイクルの取り組みの紹介があり、午後は、韓国・オーストラリア・マレーシア・モンゴルの各国の取り組みの紹介がありました。とても充実した本会でした。

3日目は、産業視察として、秋田県小坂市にある「日本PGM」を訪問しました。具体的には、DOWAグループの施設で100年以上の歴史がある鉱山事務所、自動車触媒のリサイクル施設、最終処分場、シュレッターダスト処理施設などを視察しました。

アジア諸国のリサイクル事情と各国のリサイクラーと絆を深めるとともに、秋田県の風土をも満喫することができた3日間でした。

自動車リサイクル部品販売団体東北地区交流会、開催



10月9日、宮城県仙台市にて、「自動車リサイクル部品販売団体 東北地区交流会」が開催されました。この交流会は東北地区のリサイクル部品団体を中心となって毎年開催される恒例のイベントです。今年で7年目を迎えたこの交流会、本年はNGP日本自動車リサイクル事業協同組合の担当で行われました。当日はリサイクル部品業者のみならずシステム関連業者、リビルト業者も含め、約50名が参加され、組織間を超えた同業者の交流を満喫しておりました。第一部の講演会では、モータースカレッジ東北の中里明光代表より「パラダイムシフト・変貌する自動車業界」という演題で、やがて台頭してくる次世代自動車と新技術について、分かりやすく解説されました。次世代自動車をもたらす将来像は自動車業界、リサ

イクル業界、整備業界のみならず、社会全体にも大きな変革をもたらします。未曾有の大変革に、参加された事業者は期待よりも、むしろ危機感を感じていたようです。続く講演、株式会社クロスステージ・友澤聡介社長の「成功している経営者から学ぶ未来へのヒント」では、異業種ならではの観点で成功について語ってくれました。大いに盛り上がりを見せたのは第二部の交流会。乾杯の挨拶で、むつパーツの坪社長が「これからの時代は、組織を超えた交流、流通を目指さなければ生き残りは難しい」と訴え、その声に多くの来場者が共感を示しました。最後に、来年の幹事団体であるビッグウェーブの本郷氏にバトンを渡し、交流会は閉幕しました。

■ 10月第3週(23日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供/日刊市況通信社]



10月23日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	14,000 ~ 15,500	弱含み様子見
	南関東	14,000 ~ 15,500	弱含み様子見
名古屋		14,500 ~ 15,000	弱含み様子見
関西	大阪	14,500 ~ 15,500	弱含み様子見
	姫路	15,500 ~ 16,000	弱含み様子見

輸出市場、海外ミルの引き合い弱く弱含み

日本産鉄スクラップの輸出市場は引き続き弱含みで推移している。韓国ミルをはじめ、海外ミルの引き合いは弱く、目立った新規商談も出ておらず、一部で見られる個別商談でも、輸出価格の下落が見られる。

貿易筋によると、韓国大手の現代製鉄は前週、商談自体を見送ったもようだ。足元の在庫量が多いうえ、輸入港で滞船しているともされ、10月の配船予定の一部を11月へ延期している。こうした状況の中では新規輸出商談も活発化せず、通常の商談再開がいつになるかも不透明な状況だ。

別の貿易筋によると、韓国の一部電炉が前週、H2を1トあたりFOB13,500円で成約したという。前回の成約価格(FOB14,200~4,500円)に比べて安値となり、輸出価格は続落しているうえ、15,000円前後にある日本国内相場に比べて割安な水準だ。しかし、国内電炉の減産で内需が減少しており、売り先確保のために一部の商社・シッパー筋が安値成約を受け入れたもよう。輸出市場は先安観を残している。

【関東地区】電炉入荷はバラつきあるも概ね好調、軟調様子見の推移続く

関東地区の鉄スクラップ市況は、引き続き軟調様子見となっている。電炉筋が減産を継続しているため需要量が少なく、電炉各社の鉄スクラップ入荷はバラつきがあるが概ね好調、在庫水準も高いのが現状だ。こうした中、先行して値下がりしていた浜値がやや上げ戻している。H2浜値は、23日時点では13,500~4,000円中心。しかし、H2炉前実勢価格は14,000~5,000円中心、高値15,500円見当と、浜値よりも割高な価格が残っている。

【東海地区】10月上旬のメーカー値下げの後は様子見模様

域内メーカーは10月に入り月上旬までに3回(3日、8日、10日)計1,500円がたの購入価格改定下げを実施した。H2炉前実勢価格は14,500~5,000円中心。東京製鉄の静観もあり、この2週間余りは様子見模様が続いている。電炉筋の様子見対応もあり、業者間には下げ一服感の見方も台頭しているが、海外市況の全面安から輸出も停滞。東海を含めた国内のスクラップ需給は引き続き緩い状況にあり、底値が見えてこない状況にある。

【関西地区】入荷制限散発で需給面の下げ圧力は高いまま

大阪地区の鉄スクラップ市況は弱含み横ばいで推移している。正常な流通を維持するための下限値に近づきつつあることで、極端な値下がりについては否定的な意見が多い。しかし電炉側にとって入荷増を受けての制限買いが他社に波及する構図は変わらず、需給環境での下落圧力はなおも高いままだ。H2炉前実勢価格は14,500~5,500円、新断バラ炉前実勢価格は16,000~7,300円。姫路地区のH2炉前実勢価格は15,500~6,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、10月23日午後時点のもの)

行事予定

11月の主な予定

11月17日(火)

◇ 第8回 広報部会

11月20日(金)

◇ 自動車及び車体工場見学会

11月24日(火)

◇ 第2回 理事会

11月25日(水)

◇ 第3回 ブロック長会議



お知らせ

■会員数(2015年10月時点)

総数 598社 / 会員 570社、賛助会員 28社

■新規ご入会者のご紹介(2015年10月ご入会)

【賛助会員】

千葉県千葉市
「三立機械工業株式会社」様

福井県敦賀市
「有限会社ラックスマン・エンタープライズ・ジャパン」様

■自動車リサイクル士合格実績(2015年10月時点)

資格の種類	平成 25年度	平成 26年度
自動車リサイクル実務士初級 (引取・フロン類回収工程)	4名	37名
自動車リサイクル実務士上級 (引取・フロン類回収・解体・破砕工程)	15名	59名
自動車リサイクル管理士	626名	194名

編集後記

右を向いても、左を向いても、なかなか明るい話題が乏しい自動車リサイクル業界ですが、そんな中、面白いネタを自再協さんから頂戴しました。まずは写真をご覧ください。



これはガチャガチャというカプセル型の玩具が入っている小型自動販売機の商品です。なんと廃車がミニカーになっています。プレスされた廃車まであります。「こんなミニカー欲しい人いるの?」と思いきや、さっそく問い合わせてみますと、なんと人気沸騰中で在庫切れでした。このセンスには脱帽です。これもパラダイムシフトでしょうか!?

(広報部会 部会長 永田 則男)